

平成25年度第1回千葉市地域公共交通会議議事録（議事要旨）

1 日 時：平成25年4月25日（木） 午前10時00分～午前11時50分

2 場 所：中央コミュニティセンター8階 若潮

3 出席者

（委員）榛澤委員、池田委員、宮本委員（代理 太田良氏）、花崎委員、土屋委員、
岡澤委員、石橋委員、谷津委員

（オブザーバー）永名土木部長

（事務局）交通政策課 松本課長、森永主査、中川主査

4 議題及び議事要旨

（1）ＪＲ千葉駅西口駅前広場完成に伴うバス路線の配置の方針について
事務局から以下の案を説明し、質疑応答の後、案のとおり承認された。

（事務局案）

- ・ 方面別の明確化。（別添イメージ図参照）

東口：東部方面を国道14号より内陸部、総武本線より東側とする。

北口：内陸方面を国道14号より内陸部、総武本線より西側とする。

西口：国道14号より海側、都川より北側とする

- ・ バス路線の適正な配置を検討するための作業部会の設置。
- ・ バス路線の方面別配置のルール化。

（主な意見）

- ・ 駅前広場の乗り入れにおいて一般路線バスだけでなく、高速バスや企業バス等の貸切バスについても検討対象に含めてはどうか。
- ・ ツアーバスに関しては、高速ツアーバス連絡協議会と連絡を取り合ってほしい。
- ・ 駅前広場という限りある容量を有効に活用し、利用者の利便性向上、バスの定時性向上、安全性に配慮した路線配置を積極的に進めていただきたい。
- ・ 基本的な方向性として案を承認し、今回出された意見を含め、詳細は今後の作業部会で詰め、その結果を本会議に報告すること。

（2）若葉区泉地域コミュニティバス運行計画の見直しについて

事務局からコミュニティバス3路線の再編について説明し、質疑応答の後、案のとおり承認された。

（事務局案）

- ・ 現在、若葉区泉地域を運行しているコミュニティバス3路線（さらしなバス、おまごバス、いずみバス）について、路線を再編し各路線の運行距離を平準化。
- ・ 警察立会いのもと安全確認された区間について、フリー乗降区間を新たに設置。
- ・ 3路線一括でプロポーザル方式により、運行するバス事業者を選定。

(主な意見)

- ・路線バス登録業者ではなく、貸切バス業者が契約することも考えられるので、プロポーザル方式は基準の検討が必要。
- ・住民からの要望でバスの運行が開始しても利用者が少ない場合が多いことや、減便によって利用者がさらに減るといった悪循環があるといった事例があるので、利用実績によって市が負担を続けていくのかを住民と協議する必要がある。
- ・地元住民・行政・運行事業者の3者で構成される若葉区泉地域コミュニティバス運行協議会においては、見直しについて案のとおりで概ね了承している。
- ・案のとおり承認する。但し、プロポーザル方式の検討について、事務局及び会長に一任する。

(3) その他

事務局から千葉市地域参画型コミュニティバス等運行支援制度（案）について、案の概要を説明した。

(案の概要)

- ・市と交通事業者及び地域住民が連携し、地域住民が主体となってバスや乗り合いタクシー等を運行するための支援制度。
- ・千葉市は地域住民の相談に乗り、必要に応じてアドバイザーを派遣するなど、運行までの準備・検討・手続き等を支援する。また、運行後も赤字額の1/2（上限500万円）を補助する。

(主な意見)

- ・地域住民にも責任を持っていただくという考えは良いが、既存の系統に影響を与えないよう交通不便地域の具体的基準を定め、その地域での運行とした方が良い。
- ・基本的に交通不便地域に対し、新たな交通不便地域の定義をし、市が補助するという姿勢を示す。
- ・実施に至るまでのフローを作成し、その間、関係者を含め協議する必要がある。

(その他千葉市の公共交通全般への意見)

- ・高齢者の多い地域では、病院へ行くバス等を増やすと良いのではないかと。
- ・モノレールの駅やバスの車内等を利用し、観光に関して一層PRをすべきである。
- ・乗降客の増加を考えた路線検討が必要。
- ・これからの高齢化を考えると、コミュニティバスとデマンドバスの乗り継ぎが必要である。
- ・今後の高齢者増加を考えると、健康増進の観点から外出を支援する意味で利用者の利便性を向上させるよう路線を検討いただきたい。